

土佐國驛馬頭各五疋吾椅舟

〔日本國郡沿革考〕二土佐 古作土左或都佐國造中國管七郡千七十六村天武十三年十月地震土左國田苑五十

餘萬頃、沒爲海、

安喜百十村延喜 香我美百四十七村延 長岡百四十七村土佐百三村吾川六十九

村 高岡二百二十村分承和八年八月幡多二百八十村古波多國、見

〔日本地誌提要六十四〕沿革 古へ國府ヲ長岡郡ニ置今比江村ノ南文治ノ末源賴朝佐々木經

高ヲ以テ守護トナシ、豐島朝經、三浦義村等相繼テ職ヲ襲グ、承久ノ亂、北條義時、土御門天皇ヲ

香美郡以テ本村常樂寺ヲニ遷シ尋テ阿波ニ遷幸ス、建武中興、藤原兼光ヲ以テ州守ニ任ズ、足利

尊氏ノ反スル、其將細川定禪ヲシテ本州ヲ侵掠セシメ、州豪長曾我部安藝、吉良諸氏ヲ降シ、因

テ細川氏ヲシテ本州ヲ管セシム、天授ノ末、足利義滿、細川賴益ヲ以テ守護トナシ、田村城香美

ニ治ス、應仁ノ亂、賴益ノ曾孫勝益上京シテ其宗家ヲ援ク、是ニ於テ州内携貳シ、長曾我部長岡

豐本同郡安藝安藝郡山田香美郡吉良吾川郡大平高岡郡津野同郡七族、各郡邑ニ據ル、文明

十年、左大臣一條教房、其子房家ト共ニ亂ヲ避テ來奔ス、長曾我部文兼等七族相議シテ、房家ヲ

奉ジテ主トナシ、奏請シテ國司ニ任ジ、幡多郡中村ニ治シ、七族俱ニ政ヲ輔ク、永正中、文兼ノ孫

兼序頗ル專橫、本山茂光、大平元國等ニ殺サル、一條房家兼序ノ遺孤國親ヲ撫シ、其長ズルニ及

テ舊邑ヲ與へ、本山茂宗茂光等ト和セシム、天文八年、房家薨ジ、子房冬孫房基、相繼テ早世シ、曾

孫兼定嗣ギ、一條氏稍衰フ、國親等七族互ニ相闘ギ、二十年、國親山田元義ヲ擊テ之ヲ下シ、本山

茂宗亦吉良氏ヲ滅シ、土佐吾川二郡ヲ併セ、朝倉城土佐ニ徙ル、永祿三年、國親死シ、子元親嗣ギ、

勢漸ク強盛、本山茂辰茂宗ヲ逐ヒ、大平氏ヲ滅シ、十二年、安藝國虎ヲ殺シ、尋テ津野勝興ヲ下シ、

悉ク六郡ヲ併吞ス、時ニ一條兼定僅ニ幡多一郡ヲ保シ、遊宴ニ耽ル、天正元年、兼定其下ニ廢セ